

PowerTyper **V***series*

PowerTyper Vseries

ホスト接続機能 設定ガイド

第4版 2017年7月

- 本書はそれぞれの OS にあわせて注意深く用意しておりますが、将来バージョンアップや OS に変更のあった場合など、パソコンのモニターに実際に表示される表現と差異が出る可能性があります。ご了承ください。
- 本書に記載された仕様、その他については改良のため変更することがあります。
- IBM、System i、System z、i5/OS は IBM Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Microsoft、MS-DOS、Windows 等は米国 Microsoft Corporation の米国及び他の国における登録商標です。
- その他、記載されている社名および商品名は各社の商標または登録商標です。

© Copyright JB Advanced Technology Corporation 2007–2017.

はじめに

本書は、PowerTypeer Vシリーズに搭載されているホスト接続機能について説明します。本書は、PowerTypeer Vシリーズを設置する導入担当者および操作員の方々を対象にしています。



本書はPowerTypeer Vシリーズに対応しておりますが、本文中の表示例や設定例はV850-Zで表記しております。ご使用の機種に応じて読み替えてご覧ください。

Vシリーズのすべての機種でTN5250E接続が使用できます。

Vxxxx-Zモデル（以下Zモデル）のみTN5250E接続とTN3270E接続の両方を使用できます。

なお、ホスト接続機能をご使用いただくには、プリンター本体制御用マイクロコードおよびInterface Cardのマイクロコードのバージョンが下記のバージョン以降である必要があります。

- プリンター本体制御用 Ver 1.81（V8XX-Jモデル：Ver 1.00）
- Interface Card Ver 1.5.0

本書は次のように構成されています。

第1章 『IBM System i (AS/400) との接続』

IBM System i (AS/400) に接続し、印刷する方法について説明します。

第2章 『IBM System z (S/390) との接続』

IBM System z (S/390) に接続し、印刷する方法について説明します（Zモデルのみ対応）。

第3章 『プリンターの設定』

プリンターの設定方法について説明します。

第4章 『ホスト接続メッセージ一覧』

Webブラウザに表示されるメッセージについて説明します。

第5章 『論理プリンター』

論理プリンター機能を使用した、プリンターの使い分け方法について説明します。

第6章 『ユーザーフォントの登録』

ユーザーフォントを登録する方法について説明します。

関連マニュアル

装置本体の設定、およびネットワークに関する設定を行う場合には、サポートCD内にあるPowerTyperの「設置・操作ガイド」および「ネットワーク設定ガイド」を随時参照してください。



使用環境によっては、以下で説明している導入手順と異なる場合があります。

また、Zモデルでは、以下初期設定メニュー項目の工場出荷値が他モデルと異なります。Zモデル使用の際は注意してください。

初期設定メニュー項目	Zモデル	その他のモデル
コード ページ (5577モード)	工場出荷値 : 942	工場出荷値 : 932

詳細は、「設置・操作ガイド」の『日本語DOS文字セット (半角文字)』を参照してください。

目次

はじめに.....	iii
第1章 IBM System i (AS/400) との接続.....	1-1
接続の前に.....	1-1
接続の流れ.....	1-1
TN5250E 設定手順概要.....	1-2
TN5250E 自動構成.....	1-3
System i 環境確認 (自動構成).....	1-3
自動構成におけるSystem i の設定.....	1-4
TN5250E 手動構成.....	1-5
System i 環境確認 (手動構成).....	1-5
手動構成におけるSystem i の設定.....	1-6
プリンターの電源をオフする前に.....	1-9
セッションの切断.....	1-9
TN5250E パラメーター説明.....	1-10
第2章 IBM System z (S/390) との接続.....	2-1
接続の前に.....	2-1
接続の流れ.....	2-1
TN3270E 設定手順概要.....	2-1
TN3270E 構成.....	2-2
3270ホストシステム環境の構築.....	2-2
TN3270E パラメーター説明.....	2-3
第3章 プリンターの設定.....	3-1
Webブラウザでアクセスする方法.....	3-1
TN5250の場合.....	3-3
TN3270の場合 (Zモデルのみ).....	3-6
第4章 ホスト接続メッセージ一覧.....	4-1
第5章 論理プリンター.....	5-1
論理プリンター概要.....	5-1
印刷ジョブ前後の文字列送信機能の使用法.....	5-1

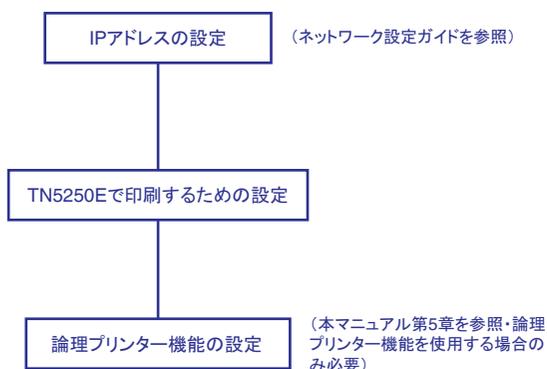
第6章 ユーザーフォントの登録.....	6-1
ユーザーフォント登録手順.....	6-1
ホスト (System i) からのユーザーフォント登録.....	6-4
ユーザーフォントを複数のプリンターに登録する.....	6-4

第1章 IBM System i (AS/400) との接続

接続の前に

PowerTypeer Vシリーズでは、IBM System i (AS/400) (以下System i) から印刷する方法として、TN5250E (TCP/IP) をサポートしています。

接続の流れ



重要

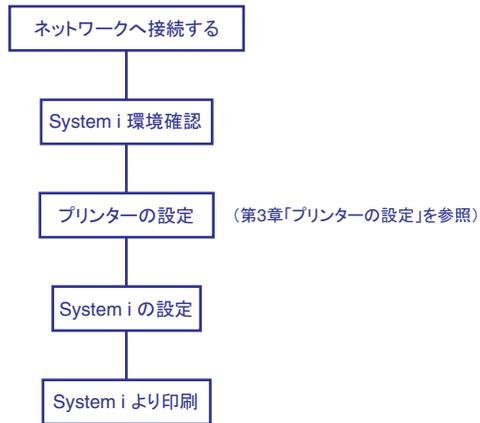
本製品でのTN5250E System i 接続は、i5/OS (OS/400) Ver 5.1以降で最終のPTFを適用の上で使用することをお勧めします。

TN5250E 設定手順概要

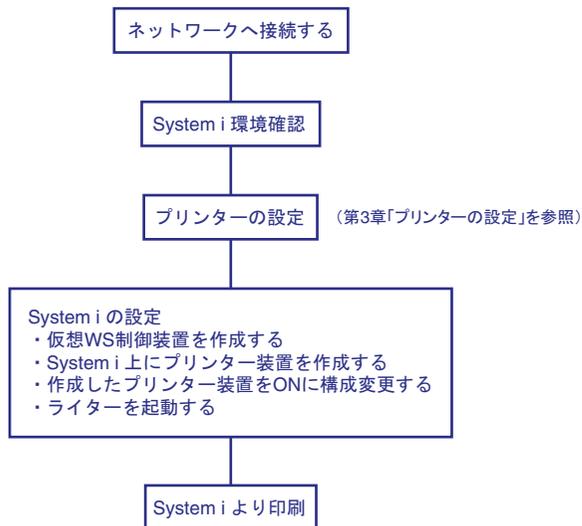
TN5250E環境における基本的なインストールは2つの方法があります。

- System i の自動設定機能に基づくセットアップ
- System i の設定を手動で行うセットアップ

System i の自動設定機能に基づくセットアップ概要 (自動構成)



System i の設定を手動で行うセットアップ概要 (手動設定)



TN5250E 自動構成

System i 環境確認 (自動構成)

以下は、TN5250Eプロトコルを使用して印刷するために、System i の自動構成機能を使用してSystem i を構成する場合、System i 環境で確認およびメモすべき一覧です。

項目	コマンド	確認・メモ内容
仮想装置数	WRKCTLD *VWS	
QAUTOVRT	DSPSYSVAL QAUTOVRT	構成された仮想装置の数より大きいこと。
System i のIPアドレス	WRKTCPSTS *IFC	

以下に具体的な手順を示します。

1. System i のコマンドライン "WRKCTLD *VWS"を実行し、自動構成された仮想装置の数を把握します。
数を確認後、F3 キーを押して終了します。
2. コマンド"DSPSYSVAL QAUTOVRT"を実行します。
QAUTOVRTパラメーターの数が1.で確認した仮想装置の数より大きいことを確認します。F3 キーを押して終了します。
QAUTOVRTの値が小さい場合、値を大きくするか、不要な仮想装置を削除してください。
3. コマンド"WRKTCPSTS *IFC"を実行して、System i のIPアドレスを確認します。
System i に有効なIPアドレスが設定されていない場合、IPアドレスを設定します。System i にIPアドレス設定不能の場合、TN5250Eでの印刷はできません。



TN5250E接続において、システム値 (QAUTOCFG) : 自動構成装置は一切関係しません。

自動構成におけるSystem i の設定

基本的には、System i 側の設定は不要です。

本製品のパラメーターを設定し、System i とのセッションが確立されると、必要な記述が自動構成されます (5553の自動作成)。

1. System i 構成状況を確認します。
WRKCFGSTS CFGTYPE (*CTL) コマンドにて、パラメーターに設定したデバイス名を確認すると、以下の表示になります。

```
                                構成状況処理
                                                                S103ZT8M
                                                                06/04/11 14:42:32
位置指定.....                               開始文字
オプションを入力して、実行キーを押してください。
  1= オンへの構成変更      2= オフへの構成変更  5= ジョブ処理      8= 記述の処理
  9= モード状況の表示     13= APPN 状況の処理...
OPT  記述                状況                -----ジョブ-----
      QQAHOST            オフに構成変更
      QVIRCD0001         活動状態
      V85TN5250A         活動状態/書出 PGM      V85TN5250A  QSPLJOB      143287

                                                                続く...

パラメーターまたはコマンド
===>
F3= 終了  F4= プロンプト  F12= 取り消し  F23= オプション続き  F24= キーの続き
```

2. System i からテスト印刷を実行します。
プリントジョブを送ります。
最初の印刷は、メッセージ応答待ちになりますので、メッセージに回答してください。

TN5250E 手動構成

System i 環境確認 (手動構成)

以下は、TN5250Eプロトコルを使用して印刷するために、System i を手動で構成する場合、System i 環境で確認・メモすべき一覧です。

項目	コマンド	確認・メモ内容
QAUTOVRT	DSPSYSVAL QAUTOVRT	0であること
System i のIPアドレス	WRKTCPSTS *IFC	

確認の具体的な手順を以下に示します。

1. コマンド"DSPSYSVAL QAUTOVRT"を実行し、QAUTOVRTパラメーターの数が0であることを確認します。
QAUTOVRTの値が0ではない場合、プリンター装置が自動構成されますので、一時的に0にしてください。
2. コマンド"WRKTCPSTS *IFC"を実行し、System i のIPアドレスを確認します。
System i に有効なIPアドレスが設定されていない場合、IPアドレスを設定してください。
System i にIPアドレスが設定不能の場合、TN5250Eでの印刷はできません。



TN5250E接続において、システム値 (QAUTOCFG) : 自動構成装置は一切関係ありません。

手動構成におけるSystem i の設定

設定を開始する前に、ネットワーク詳細印刷を出力しておくことをお勧めします。ネットワーク詳細印刷の出力方法は、ネットワーク設定ガイド 第1章「ネットワーク設定の内容確認」を参照してください。

1. 仮想WS制御装置の作成

コマンド"CRCTLWS"を実行して、仮想WS制御装置の記述を作成します。
画面に表示されるパネルの項目を以下のように選択してください。

制御装置記述：使用する制御装置の名称を決めて入力してください。

例：

仮想ワークステーション・コントローラの記述の作成例です。

制御装置記述の作成（仮想WS） (CRCTLWS)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

制御装置記述	>	QVIRCD0001 名前
IPL 時のオンライン	>	*YES *YES, *NO
テキスト記述	>	*BLANK

終り

F3= 終了 F4= 戻す F5= 最新表示 F10= 追加のパラメーター
F12= 取消し F13= この画面の使用法 F24= キーの続き
パラメーターCTLDが必要である。

仮想WS制御装置が既に作成されている場合は、新規に作成する必要はありません。
既存の仮想WS制御装置も使用できます。

2. コマンド"CRTDEVPRT"を実行して、プリンター装置の記述を作成します。
画面に表示されるパネルの項目を以下のように設定してください。

装置記述 : 装置として使用するものの名称を決めて入力します。ただし、「プリンターの設定」
3.で設定したデバイス名と同一でなければいけません。

装置クラス : *VRTを選択します。

装置タイプ : 5553を設定してください。

装置形式 : B01を設定してください。

接続される制御装置 : 前節で作成した仮想コントローラ (QVIRCD000x) を設定してください。

DBCS機能の装置の機構 : 2424J2を設定します。

例

プリンター装置の記述の作成例です。

装置記述の作成 (印刷装置) (CRTDEVPRT)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

装置記述	> <u>V85TN5250M</u>	名前
装置クラス	> <u>*VRT</u>	*ANYNW, *FAX, *FR, *IDL...
装置タイプ	> <u>5553</u>	3287, 3812, 4019, 4201...
装置型式	> <u>B01</u>	0, 1, 2, 3, 4, 10, 13, 200...
IPL 時のオンライン	> <u>*NO</u>	*YES, *NO
接続される制御装置	> <u>QVIRCD0001</u>	名前
フォント:		
識別コード	> <u>3</u>	3, 5, 11, 12, 13, 18, 19...
ポイント・サイズ	> <u>*NONE</u>	000, 1-999, 9, *NONE
用紙送り	> <u>*TYPE</u>	*TYPE, *COUNT, *CUT, *AUTOCUT
区切り用紙入れ	> <u>*FILE</u>	名前
セパレーター・ファイル	> <u>*NONE</u>	名前, *NONE
ライブラリー	> <u>*</u>	名前, *LIBL, *CURLIB
印刷装置エラー・メッセージ	> <u>*INQ</u>	*INQ, *INFO

続く...

F3= 終了 F4= フォント F5= 最新表示 F12= 取消し F13= この画面の使用法
F24= キーの続き

3. System i のディスプレイセッションで、WRKCFGSTSコマンドを使用して、手動で作成したプリンター装置をオンへ構成変更 (VARY ON) します。

4. コマンド"WRKCFGSTS CFGTYPE (*CTL) "で、System i 構成状況を確認します。
ここまでの作業の結果、1台のプリンターでは、下記のような構成状況になります。

```

                                構成状況処理
                                                                S103ZT8M
                                                                06/04/11 14:42:32
位置指定.....                               開始文字
オプションを入力して、実行キーを押してください。
  1= オンへの構成変更      2= オフへの構成変更  5= ジョブ処理      8= 記述の処理
  9= モード状況の表示    13= APPN 状況の処理...
OPT  記述                状況                ----- ジョブ-----
      QQAHOST            オフに構成変更
      QVIRCD0001         活動状態
      :
      HOSTNETIP          活動状態/書出PGM  HOSTNETIP  QSPLJOB  143287
      :
                                                                続く...

パラメーターまたはコマンド
===>
F3= 終了   F4=プロンプト   F12= 取消し   F23= オプション続き   F24= キーの続き

```

5. ライターを起動します (STRPRTWTRコマンド)。
6. System i からテスト印刷を実行します。
ライター起動後の最初の印刷は、メッセージ応答待ちになりますので、メッセージに応答してください。

プリンターの電源をオフする前に

セッションの切断

プリンターの電源をオフする際に、以下の手順でセッションの切断作業をおこなってください。



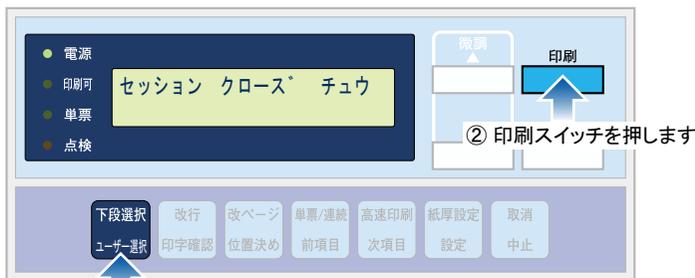
印字の途中で、この操作はおこなえません。取消スイッチで印刷を取り消した後、この操作をおこなってください。

重要

1. 印刷スイッチを押して、プリンターを印刷不可状態にします。



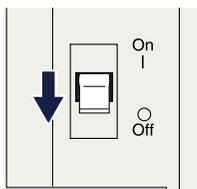
2. 下段選択スイッチを押しながら印刷スイッチを押します。



- ① 下段選択スイッチを押したまま

「セッション クローズ チュウ」と表示されます。

しばらく経つと、「デンゲン OFF」と表示されますので、プリンターの電源をオフにします。



表示部に「デンゲン OFF」と表示されている状態では、プリンターは一切動作しません。

TN5250E パラメーター説明

TN5250Eを使用して印刷する際、WebブラウザまたはTelnet上で設定可能なパラメーターの一覧です。

ホスト接続共通設定

1. 外字モード

外字の登録文字数を選択します。

「4370」を選択した場合は、TN5250EとTN3270Eで登録文字を共有します。

「1880」を選択した場合は、TN5250E、TN3270E各自に対して1880文字ずつ登録できます。

工場出荷値：4370



1880を選択した場合、1880文字以降の外字は使用できません。

2. 内部トレース

ホストコマンドトレースを採取するか否かを選択します。

工場出荷値：OFF（採取しない）

TN5250E

以下のパラメーターは、ホスト接続共通設定にて「5250」を選択したセッション番号をクリックして設定します。

1. 接続先IPアドレス

プリンターをTN接続するホストのIPアドレスを設定します。

工場出荷値：0.0.0.0



5250ホストIPアドレス値が0.0.0.0の状態では、接続動作を行いません。

2. 接続ポート番号

TCP/IPのポート番号を指定します。

設定範囲：1～65535までの整数値

工場出荷値：23

3. 自動再接続

接続が切断された後、プリンター側から自動的に接続要求を発行します。

工場出荷値：ON（再接続する）

4. 装置名称

印刷装置のデバイス名(DEVNAME)を定義します。半角の英数字で最大10文字まで指定できます。

工場出荷値: なし



装置名称の使用可能文字には、以下の制限があります。

1文字目 : A ~ Z, @, #, \$

2文字目以降 : A ~ Z, 0 ~ 9, @, #, \$, _ .

5. メッセージ待ち行列

プリンターの操作メッセージが送られる先の待ち行列の名前(MSGQNAME)を定義します。

半角の英数字で最大10文字まで指定できます。

メッセージ待ち行列はディスプレイ装置ごとに存在し、ディスプレイ装置自身と同じ名前が割り当てられます。

ここでディスプレイ・セッションの名前を指定した場合には、メッセージはデフォルト値待ち行列ではなく、そのディスプレイ・セッションに送られます。

工場出荷値: QSYSOPR



メッセージ待ち行列の使用可能文字には、以下の制限があります。

1文字目 : A ~ Z, @, #, \$

2文字目以降 : A ~ Z, 0 ~ 9, @, #, \$, _ .

6. メッセージライブラリ

メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前(MSGQLIB)を定義します。

半角の英数字で最大10文字まで指定できます。

工場出荷値: *LIBL



メッセージライブラリの使用可能文字には、以下の制限があります。

1文字目 : A ~ Z, @, #, \$

2文字目以降 : A ~ Z, 0 ~ 9, @, #, \$, _ .

7. ホストコードページ

1バイト文字のコードテーブルを指定します。設定値は以下の通りです。

930: 英数カタカナ。英大文字と半角カナが印字されます。英小文字は印字されません。

931: 英数小文字。英大文字と英小文字が印字されます。半角カナは印字されません。

939: 英数小文字拡張。英大文字、英小文字と半角カナが印字されます。

工場出荷値: 939

8. 自動改行

SCS SHFコマンドで指定される最大印刷桁数(MPP)を有効とするか無効とするかを選択します。

工場出荷値: ON (MPPIは有効)

9. トラクタモード

- ON : ページ境界で改行が送られます。
OFF : ページ境界で改ページが送られます。

工場出荷値 : OFF

10. SI/SOの拡大動作

SI/SOモード制御コードが、文字拡大指定範囲に含まれたときに拡大修飾の影響を受けるか受けないかを選択します。

工場出荷値 : OFF (影響を受けない)



印字結果をIBMの装置と同一にするためには、以下のような関係があります。

IBM5227 : 影響を受けない

IBM5327 : 影響を受ける

11. ATRNモード

APWで書式合成 (MRGAPW) を行う際、印刷装置タイプ (DEVTYPE) へ *PAGES が指定されたときにSystem i から送出される印刷データストリームのフォーマットと合致するものを選択します。

選択可能値 : Continuous
Subcommand

工場出荷値 : Subcommand

12. 出力先印刷ポート

論理プリンターを経由してプリンターへ印刷データを送出する場合、lp1 ~ lp6のどれかを選択します。

論理プリンターについては、第5章 論理プリンターを参照してください。

工場出荷値 : lp1

13. ジョブ毎設定

「ON」にするとジョブ毎に印字幅、ページ長、文字ピッチ、行ピッチの初期設定値を送ります。

工場出荷値 : ON

14. 機器登録外字の使用

TN5250E内のユーザーフォントを使用するか、プリンター本体内のユーザーフォントを使用するかを選択します。

本プリンターでは必ず「NO」にします。

第2章 IBM System z (S/390) との接続

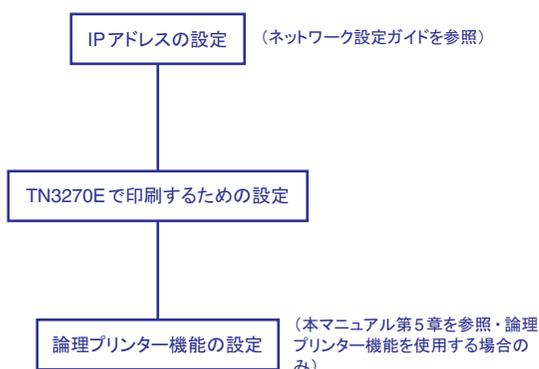
接続の前に

IBM System z (S/390) (以下System z) から印刷する方法として、TN3270E (TCP/IP) をサポートしています。

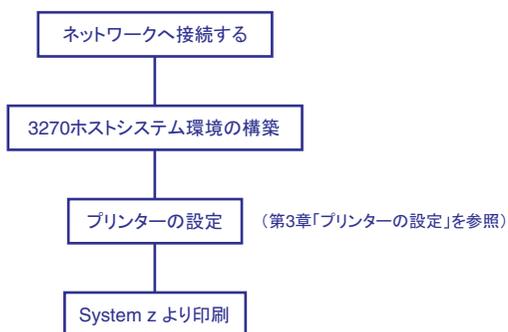


TN3270E機能は、PowerTypert Vxxxx-Zモデルのみ使用できます。その他のモデルでは対応していません。

接続の流れ



TN3270E 設定手順概要



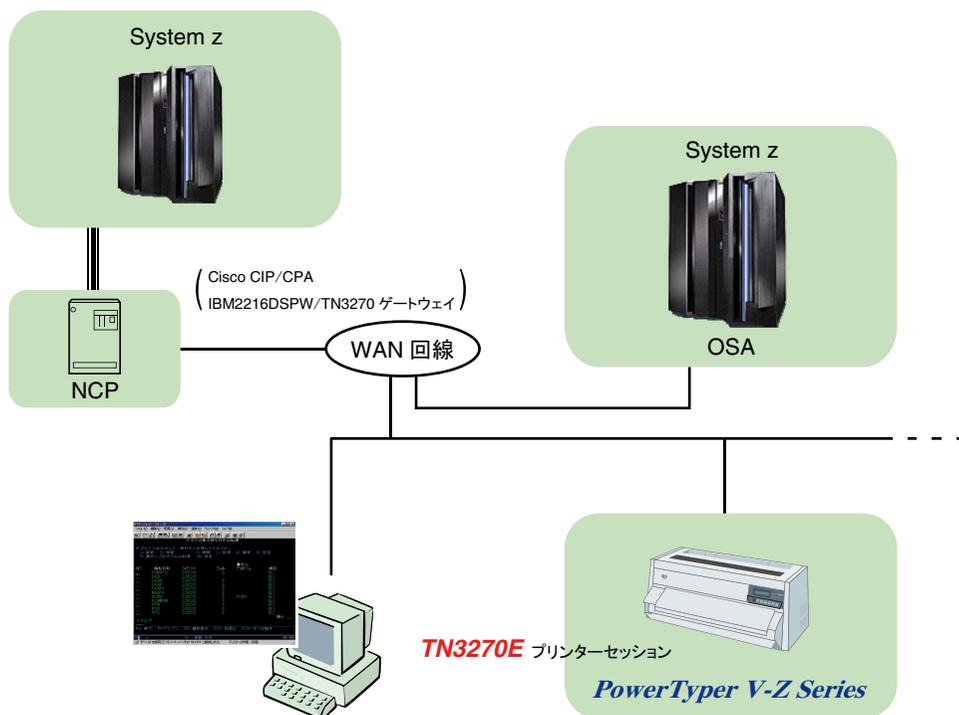
TN3270E 構成

3270ホストシステム環境の構築

3270ホストシステムにおいて、以下の環境に適応したプリンター定義を行ってください。

- イーサネットケーブル (プリンターインターフェース : Ethernet 100BASE-TX/10BASE-T)
- TCP/IP
- プライマリー LU (論理装置) としてのLUType1もしくはLUType3 (バッファサイズ1920固定)
- Telnet3270 (REC2355/1646) プロトコル

接続例



TN3270E パラメータ説明

TN3270Eを使用して印刷する際、WebブラウザまたはTelnet上で設定可能なパラメータの一覧です。

ホスト接続共通設定

1. 外字モード

外字の登録文字数を選択します。

「4370」を選択した場合は、TN5250EとTN3270Eで登録文字を共有します。

「1880」を選択した場合は、TN5250E、TN3270E各自に対して1880文字ずつ登録できます。

工場出荷値：4370



1880を選択した場合、1880文字以降の外字は使用できません。

2. 内部トレース

ホストコマンドトレースを採取するか否かを選択します。

工場出荷値：OFF（採取しない）

TN3270E

以下のパラメータは、ホスト接続共通設定にて「3270」を選択したセッション番号をクリックして設定します。

1. 接続先IPアドレス

プリンターをTN接続するホストのIPアドレスを設定します。

工場出荷値：0.0.0.0



3270ホストIPアドレス値が0.0.0.0の状態では、接続動作を行いません。

2. 接続ポート番号

TCP/IPのポート番号を指定します。

設定範囲：1～65535までの整数値

工場出荷値：23

3. LU名

印刷装置のLU名を定義します。半角の英数字で最大10文字まで指定できます。

工場出荷値：なし



装置名称の使用可能文字には、以下の制限があります。

1文字目 : A ~ Z, @, #, \$

2文字目以降: A ~ Z, 0 ~ 9, @, #, \$

4. 自動再接続

接続が切断された後、プリンター側から自動的に接続要求を発行します。

工場出荷値：ON (再接続する)

5. ホストコードページ

1バイト文字のコードテーブルを指定します。設定値は以下の通りです。

930: 英数カタカナ。英大文字と半角カナが印字されます。英小文字は印字されません。

931: 英数小文字。英大文字と英小文字が印字されます。半角カナは印字されません。

939: 英数小文字拡張。英大文字、英小文字と半角カナが印字されます。

工場出荷値：930

6. 文字ピッチ

文字ピッチを選択します。単位はCPIです。

選択可能値：10/12/13.4/15

工場出荷値：10

7. 最大印刷桁数

最大印刷桁数を設定します。

設定範囲：1 ~ 204

工場出荷値：132

8. 行ピッチ

1インチ当たりの行数を選択します。単位はLPIです。

選択可能値：2/3/4/5/6/7.5/8

工場出荷値：6

9. 最大印字行数

最大印字行数を設定します。

設定範囲：1 ~ 255

工場出荷値：66

10. 設定の優先
設定の優先を選択します。



設定値を選択した場合、コマンドを受信しても変更されません。

工場出荷値：コマンド

11. 自動改行
SCS SHFコマンドで指定される最大印刷桁数 (MPP) を有効とするか無効とするかを選択します。

工場出荷値：ON (MPPは有効)

12. LU1オプション
0：指定なし
1：SI/SO スペース
2：NULL スペース

工場出荷値：0

13. LU3オプション
0：指定なし
1：改頁直後のスペース
2：NULLスペース

工場出荷値：0

14. ファンクション
0：予約

工場出荷値：0

15. TRN変換
TRN変換をするか否かを選択します。

工場出荷値：OFF



- LUType1の印刷で、TRN コマンド中のデータを無変換で出力します。
- 内容によっては書式・管理がずれますので、注意してください。

16. ジョブリンクタイマー
ジョブリンクタイマーを指定します。ジョブを繋げて印刷する場合に使用します。
タイムアウト前に次のジョブを受信すれば連結します (単位：秒)。
設定範囲：1 ~ 65535までの整数値

工場出荷値：0

17. ジョブエンドタイマー

ジョブエンドタイマーを指定します。ジョブを分離して印刷します。

タイムアウトでジョブを終了します (単位: 秒)。

設定範囲: 1 ~ 65535までの整数値

工場出荷値: 0

18. インタベタイマー

操作員介在要求タイマーを指定します。データ受信から、印刷停止状態がタイムアウト時間経過したときに操作員介在要求をホストに出力します (単位: 分)。

設定範囲: 1 ~ 65535までの整数値

工場出荷値: 0

19. 機器登録外字の使用

TN3270E内のユーザーフォントを使用するか、プリンター本体内のユーザーフォントを使用するかを選択します。



本プリンターでは必ず「NO」を選択してください。

20. 出力先印刷ポート

論理プリンターを経由してプリンターへ印刷データを送出する場合、lp1 ~ lp6のどれかを選択します。

工場出荷値: lp1

第3章 プリンターの設定

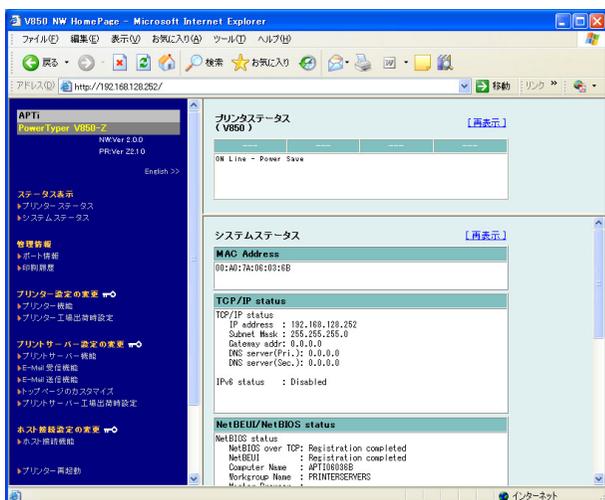
Webブラウザでアクセスする方法

Webブラウザでの設定方法に関しては、「ネットワーク設定ガイド」も併せて参照してください。

1. 各種Webブラウザ製品のURL入力部分に、「http://IPアドレス」を入力します。
以下はInternet Explorerで192.168.128.252のIPアドレスをもつプリンターにアクセスする場合です。



アクセスすると本製品のWebページが表示されます。



2. 「ホスト接続機能」をクリックすると、以下のように表示されます。



設定を行う場合、ユーザー名とパスワードを入力する必要があります。

ユーザー名 : root

パスワード : (環境設定で設定した文字列・設定していない場合は入力する必要はありません)

で「OK」をクリックしてください。



設定例 :

セッション1 : 5250

セッション2 : 3270

セッション3 : OFF

セッション4 : OFF

外字モード : 4370

内部トレース : OFF

(工場出荷値 : 外字モード 4370)

TN5250を使用する場合、セッション1～4のいずれかにて「5250」を選択します。TN3270を使用する場合は、「3270」を選択します。

上記設定例では、セッション1でTN5250、セッション2でTN3270がそれぞれ使用できます。

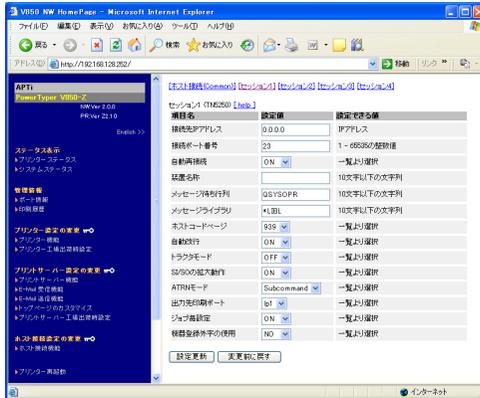


TN3270を選択できるのはZモデルのみです。それ以外の機種ではTN3270を選択できません。

以降、TN5250の場合とTN3270の場合に分けて説明します。

TN5250の場合

1. [セッション1]～[セッション4]のうち、5250を選択したものをクリックします。
以下の画面が表示されますので、セッション設定を行います。



接続先IPアドレス : (System i のコマンド "WRKTCPPSTS *IFC"で確認したIPアドレス)

装置名称 : プリンター装置の名称に設定します。

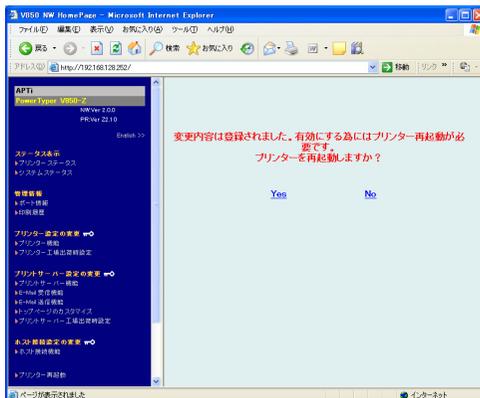
その他、「TN5250E パラメーター説明」を参照し、必要であれば他のパラメーターを変更します。

接続先情報は、システム担当者に確認してください。

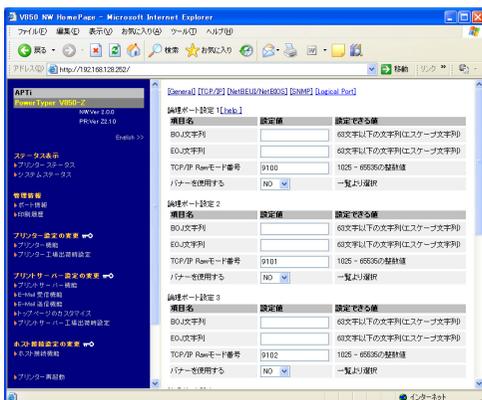


パラメーターのうち、「ホストコードページ」の設定は、System i の設定と合わせてください。「ホストコードページ」の設定が一致していないと、半角カナ文字を印刷する際に文字化けが発生します。

2. 変更後に「設定更新」ボタンを押し、変更したパラメーターを保存します。
「設定更新」ボタンを押すと、次の画面に切り替わります。
すべての設定を終了する場合は4.に進んでください。
他にもパラメーターを設定する場合は「No」をクリックし、引き続き設定を行います。



3. 5250を選択したセッションの設定で、出力先印刷ポートとしてlp1～lp6を指定した場合、対応する論理ポート1～6において必要な設定を行います。
 プリントサーバー機能の [Logical Port] をクリックすると以下のように表示されます。



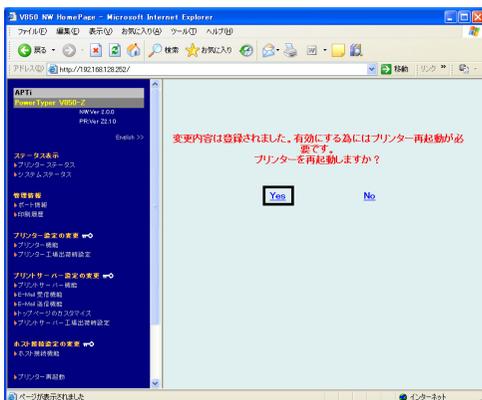
第5章「論理プリンター」を参照し、必要な設定を行ってください。

変更後は、フレーム下の「設定更新」ボタンを押し、変更したパラメーターを保存します。



ホスト接続機能を使用する際は、論理ポート設定の「バナーを使用する」を必ず「NO」に設定してください。

4. すべての設定が完了したら、プリンター再起動確認画面で「Yes」をクリックします。



TN3270の場合（Zモデルのみ）

1. [セッション1]～[セッション4]のうち、3270を選択したものをクリックします。
以下の画面が表示されますので、それぞれのセッション設定を行います。



接続先IPアドレス：TN3270サーバーのIP
アドレス

LU名：装置名称を設定します。

その他、「TN3270E パラメーター説明」を
参照し、必要であれば他のパラメーター
を変更します。



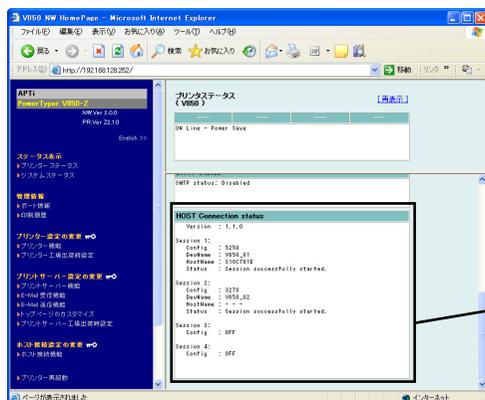
- 接続先情報は、システム担当者に確認してください。
- パラメーターのうち、「ホストコードページ」の設定は、System zの設定と合わせてください。「ホストコードページ」の設定が一致していないと、半角カナ文字を印刷する際に文字化けが発生します。

変更後に「設定更新」ボタンを押し、変更したパラメーターを保存します。

この後の手順および画面推移は、「TN5250の場合」2.～5.と同様です。

第4章 ホスト接続メッセージ一覧

各セッションで5250または3270を選択すると、Webブラウザ表示の各セッションの「Status」部分にメッセージが表示されます。



ホストとの接続状況は、ここで確認してください。

接続状態遷移状況

メッセージ	内容
"Idle, not connected."	ホストとの接続をしていない状態です。(初期状態)
"Connecting..."	ホストへの接続を行っている状態です。
"Unexpectedly disconnected, wait reconnect."	ホストとの接続が切断されたか、接続に失敗した状態です。自動再接続がOnのとき表示され、一時待機状態に入ります。
"Unexpectedly disconnected."	ホストとの接続が切断されたか、接続に失敗した状態です。自動再接続がOffのとき表示されます。
"Firmware broken."	回復不能な内部エラーが発生しました。
"Session successfully started."	ホストとの接続に成功しました。

ジョブ処理状況

メッセージ	内容
"Session idle."	ホストと接続状態で、現在印字を行っていません。
"Wait printer available."	ホストからのジョブ開始を受けてプリンターポートの獲得を待っている状態です。ホストには場合によってNot Ready (C900030251) が通知されます。
"Printing."	印刷実行中です。
"Clear command received."	CLEARコマンドを受信したときに表示されます。
"Not Ready."	印刷中にプリンターがDeselect状態になりました。ホストにはNotReady (C900030251) が通知されます。
"Graphic check."	印字不能文字を受信しました。ホストにはGraphicCheck (C900030226) が通知されます。
"Machine check."	エミュレーターの内部で回復不能エラーが起きました。ホストにはMachineCheck (C900030211) が通知されます。
"Machine check 1."	エミュレーターの内部で回復不能エラーが起きました。ホストにはMachineCheck1 (C900030286) が通知されます。
"Machine check 2."	エミュレーターの内部で回復不能エラーが起きました。ホストにはMachineCheck2 (C900030287) が通知されます。

接続開始状態（ホストからの通知）

メッセージ	内容
"Virtual device has less function."	機能制限つきで接続を開始します。
"Session successfully started."	通常の接続を開始します。
"Device description not found."	装置記述が見つかりません。
"Controller description not found."	制御装置記述が見つかりません。
"Damaged device description."	装置記述が破損しています。
"Device not varied on."	装置を有効にできません。
"Device not available."	装置は使用可能な状態にありません。
"Device not valid for session."	装置はこの接続には正しくありません。
"Session initiation failed."	セッションの開始に失敗しました。
"Session failure."	一般的なセッション動作が失敗しました。
"Controller not valid for session."	制御装置がこの接続には正しくありません。
"No matching device found."	この接続に合致する装置が見つかりません。
"Not authorized to object."	アクセス権限がありません。
"Job canceled."	ジョブが中断されました。
"Object partially damaged."	装置が部分的に破損しています。
"Communications error."	一般的な通信エラーが発生しました。
"Negative response received."	否定応答を受信しました。
"Start-up record built incorrectly."	開始レコードが正しく作られていません。
"Creation of device failed."	装置の生成に失敗しました。
"Change of device failed."	装置の構成変更に失敗しました。
"Vary on or vary off failed."	装置の有効化・無効化に失敗しました。
"Message queue does not exist."	指定されたメッセージキューは存在しません。
"Session rejected."	セッションは拒絶されました。
"Security failure on session attempt."	セッション確立時にセキュリティ上の問題が発生しました。
"Auto-config failed or not allowed."	自動構成に失敗したか、あるいは許可されていません。
"CONN-PARTNER"	指定したLUは既に別のTelnetセッションと関連づけられています。
"Device-name is already associated."	LUは使用中です。
"Invalid ASSOCIATE."	LU名が認識できません。
"Invalid device-name."	サーバーは、プリンターをサポートしていません。
"Device-name is incompatible."	プリンタータイプのそのLU名は存在しません。
"UNKNOWN-ERROR"	ネゴシエーションエラー（不明なエラー）
"Unable to satisfy the type of request."	サーバーは、プリンターをサポートしていません。

第5章 論理プリンター

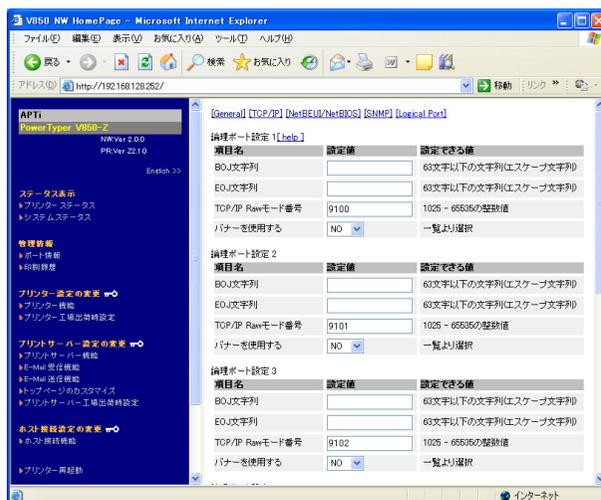
論理プリンター概要

論理プリンターとは、ネットワークと物理的なプリンターとの間に設定された仮想的なプリンターです。この機能を使うことで、たとえ物理的にはプリンターが1台しかなくても、6つまでの論理プリンターに各々別の属性を与えて、場合に応じて使い分けることができます。

印刷ジョブ前後の文字列送信機能の使用方法

ここでは、各印刷ジョブ前後にプリンター制御コマンド等の文字列を送信する方法について解説します。この指定は、各論理プリンターで個別に行うことができます。すべての文字列は、16進数値で記述します。

1台のプリンターで複数種類の用紙に印刷する場合、各論理プリンターに対応するコマンドを設定しておけば、出力時に論理プリンターを切り換えるだけでそれらの印刷が可能になります。論理プリンターはlp1～lp6があり、下図のようにのBOJ文字列、EOF文字列のパラメーターがあります。



重要

ホスト接続機能を使用する際は、論理ポート設定の「パナーを使用する」を必ず「NO」に設定してください。

以降で、用紙選択の設定例を説明します。

(1) 下トラクター選択

B0J文字列：¥x1B¥x7E¥x10¥x00¥x02¥x01¥x01

(2) 上トラクター選択

B0J文字列：¥x1B¥x7E¥x10¥x00¥x02¥x01¥x02

(3) 単票用紙選択

B0J文字列：¥x1B¥x7E¥x10¥x00¥x01¥x02



16進コードに文字コードが割り当てられている場合、文字列設定後にウィンドウを再表示させると、該当する文字に置き換えられて表示されます。

例：

¥x25 ⇒ " % "

¥x31 ⇒ " 1 "

¥x7E ⇒ " ~ "

第6章 ユーザーフォントの登録

本機能では、ユーザーフォントを4370文字まで登録できます。



- 登録できる文字のドットサイズは、縦24ドット×横24ドットのフォントで、縦24ドット×横27ドットのフォントは登録できません。
- プリンターに登録されたユーザーフォントは、削除されたリインターフェースの初期化が実行されない限り有効です。

ユーザーフォント登録手順

1. ホストで使用するユーザーフォントが登録されているPC上で、ユーザーフォント変換ソフトウェア「WinGaijiConvA.exe」を起動します。



PCのユーザーフォントのドットサイズは縦64ドット×横64ドットでデザインされていますが、本ツールにより縦24ドット×横24ドットに変換されてホスト接続機能に登録されます。

外字データ変換ツールウィンドウが開きます。



2. フォント名を選択します。



- 出力するファイル名を指定します。
直接「出力ファイル名」に入力するか、「参照」をクリックします。



ファイル名は任意で指定できます。ただし、ftpのputコマンドを実行する際は、ファイル名を以下のように変更する必要があります。

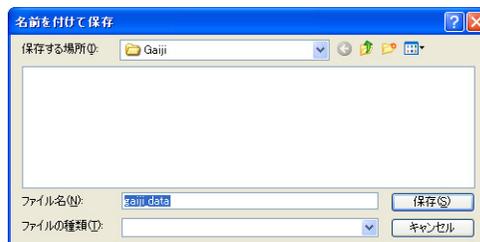
4370文字用 : 「gaiji_data (拡張子なし)」

1880文字5250用: 「gaiji_1880_52 (拡張子なし)」

1880文字3270用: 「gaiji_1880_32 (拡張子なし)」



「参照」をクリックすると、選択画面が表示されます。



- 外字データ変換ツールウィンドウに戻って、「実行」をクリックします。
作成終了のダイアログボックスが表示されたら「OK」をクリックします。



再度、外字データ変換ツールウィンドウに戻って「終了」をクリックし、外字データ変換ツールを終了します。

- 「出力ファイル名」で指定したフォルダに、作成されたファイルがあることを確認します。

6. コマンドプロンプトを起動します。
ファイルを作成したフォルダに移動し、プリンターのFTPを起動し、
User : root
Password: (環境設定で設定した文字列・設定していない場合は入力する必要はありません)
でログインします。

7. 作成したユーザーフォントファイルをputコマンドで登録します。



重要

putコマンドを実行する際は、ユーザーフォントファイル名を以下のように変更する必要があります。

4370文字用 : 「gaiji_data (拡張子なし)」

1880文字5250用: 「gaiji_1880_52 (拡張子なし)」

1880文字3270用: 「gaiji_1880_32 (拡張子なし)」

- 例) 指定フォルダ : C:¥work¥Gaiji
プリンターのIPアドレス: 192.168.128.252
の場合

```
コマンド プロンプト
Microsoft Windows XP [Version 5.1.2600]
(C) Copyright 1985-2001 Microsoft Corp.

C:\Documents and Settings\User>cd ¥work¥Gaiji

C:¥work¥Gaiji>ftp 192.168.128.252
Connected to 192.168.128.252.
220 V850 NW Ver. 1.5.0 FTP server.
User (192.168.128.252:(none)): root
331 Password required.
Password:
230 User Logged in.
ftp> put gaiji_data
200 PORT command Ok.
150 Open data connection.
226 Data connection closed.
ftp: 314648 bytes sent in 0.51Seconds 615.75Kbytes/sec.
ftp> quit
221 Quit.
```

8. ftpのプロンプトに戻ったら、quitコマンドでftpを終了します。



- ここで登録されたユーザーフォントは、プリンターのホスト接続機能でのみ使用できません。その他の印刷においては使用できません。
- 5250および3270を選択したセッション1～4の設定の「機器登録外字の使用」は必ず「NO」に設定してください。

ホスト (System i) からのユーザーフォント登録

ユーザーフォントは、System i のユーザーフォント登録機能 (LODPPW) を使ってプリンターに登録します。LODPPW の使用方法につきましては、日本アイ・ピー・エム株式会社のホームページにあるプリンターホームページのダウンロード項目を参照してください。



このプリンターに登録できるユーザーフォントは24ドット×24ドットのフォントのみです。また、登録できる文字数は4370または1880文字までです。

ユーザーフォントを複数のプリンターに登録する

System i からプリンターにダウンロードされたユーザーフォントは、ファイルとして保管できます。このファイルを使用し、複数の同シリーズのプリンターへも登録できます。

1. 登録されたユーザーフォントをftpのgetコマンドで取得します。

例) 指定フォルダ : C:\work\Gaiji
プリンターのIPアドレス: 192.168.128.252
の場合

```
コマンドプロンプト
Microsoft Windows XP [Version 5.1.2600]
(C) Copyright 1985-2001 Microsoft Corp.

C:\Documents and Settings\User>cd \work\Gaiji

C:\work\Gaiji>ftp 192.168.128.252
Connected to 192.168.128.252.
220 VB50 NW Ver 1.5.0 FTP server.
User (192.168.128.252:(none)): root
331 Password required.
Password:
230 User Logged in.
ftp> get gaiji_data
200 PORT command Ok.
150 Open data connection.
226 Data connection closed.
ftp: 314648 bytes received in 0.61Seconds 514.97Kbytes/sec.
ftp> quit
221 Quit.

C:\work\Gaiji
```



getコマンドを実行する際は、ユーザーフォントファイル名を以下のように変更する必要があります。

4370文字用 : 「gaiji_data (拡張子なし)」
1880文字5250用: 「gaiji_1880_52 (拡張子なし)」
1880文字3270用: 「gaiji_1880_32 (拡張子なし)」

ftpのプロンプトに戻ったら、quitでコマンドでftpを終了します。

2. 指定したフォルダ内にユーザーフォントファイルが格納されていることを確認します。
3. 前項「ユーザーフォント登録手順」7の手順で、このユーザーフォントファイルを複数のプリンターに登録します。